
どすこいシスターズ

さすらい物書き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どすこいシスターズ

【コード】

N3119A

【作者名】

さすらい物書き

【あらすじ】

二人の女の子が、いかなるいきさつかは不明だが、コンビで漫才をすることに。はてさて、どうなることやら……？

(前書き)

はじめまして。ぼくの名刺代わりの異色短編です。
ちよっとでも「くすり」としていただけたら、嬉しいです。

芸人風の格好をした女の子が2人、下手から入ってくる。

「だからその“よりきり”って名前はなんなのよお！」

「え？ あたしが“はりきり”で、あなたが“よりきり”。ちゃんと韻も踏んでるでしょ？」

「いや、韻を踏んでるかどうかはこの際二の次なの！」

「いいじゃない。ね、やるやる。団長さんも喜ぶし、お客さんだって笑うよおきつと」

「だって漫才なんてわたし初めてなんだよ？ そんないきなりやれって云われても無理だよお！」

「大丈夫だよ。ほら、台本は手のひらサイズに作ってあるからステージの上でカンニングも出来るようになってるし」

「……台本見ながらでいいのかなあ」

「蝶ネクタイだってあるんだし。二人で平成の“やすきよ”を目指そうよ」

「うん」

「やろーよお！ あとでシュークリームごちそうするからな」

「……………出だしはどんな感じなの？」

「えとね、まず二人揃って手を叩きながら下手から入場すんの」

「うわ、ベタねえ……………！」

「悪く云えば『王道』ね」

「いや、この場合「ベタ」の方が悪く云ってる方……………」

「んでもってあたしが『はりきりです！』って云うからあなたが、『よりきりです』って云う」

「よりきり、かあ（ため息）」

「そ。そして『二人あわせて』『どすこいシスターズです！』」

「ど、どすこいシスターズ」？！」

「って云ったあとあなたがこう……………（右手で「心」の字を書きながら）……………やりながら『ごつつあんです！』と叫ぶ、つと……………」

「ええ〜っ?! なにそれえー！（泣）」

「だいじょうぶ、すっごいキュートよ」

「なにを根拠にそんなことが云えんのよ……………。いや、やっぱりおかし
いよあの団長。ちよっとその漫才部分を見せてよ」

台本をはりきりから奪う。上の数枚だけを取り、残りのページは近くの椅子に置く。

「えーっと、（棒読みで）

『ところであんた最近犬飼はじめたらしいね』

『うん飼い始めたよ。すっごくかわいいの』

『でもいろいろ面倒でしょ？ 云うこと聞かんかったりなんだから』

『ううん、だいじょうぶよ。だってわたし、犬の云うことわかるもん』

『え？ 君犬の云うこと理解できるんかいな』

『うん』

『うそ云いなや、あんなワンワン吠えてるだけのヤツの云うことなんか分かるかいな』

『わかるってば。コツが分かればあなたにもワンちゃんの云うてることが分かるようになるわよ』

『そいつはすごいな。じゃひとつ教えてくれんか』……なんで私だけ関西弁なの？』

「顔的にじゃない？」

「あんだどつくよほんまに」

「違った、キャラ的にだ」

（「じぶしに」「はあ〜」「っと息を吐きかける）

「ほら、その仕草とか、普通の女の子はしないもん」

「しまった!」

「ところで台本の続きは?」

「せやった。えーっと、

『そいつはすごいな。じゃひとつ教えてくれんか』

『いいよ。犬はね、吠えるのにしてもいろんな意味で吠えてるわけ。泣き声でいるんな気持ちを表現しているわけなのよ』

『ほほう』

『そこで、今からあたしがワンちゃんの鳴き真似をやってみるから、よりきりちゃんはそれがなんで鳴いているのかを当ててみていうのはどう?』

『そいつはええな』

『それじゃあいくよ』

『お』

『……にゃあーお』

『そりゃ猫やないか!』

……」(無言)

「おもしろい……!」

「おもしろいか?!」

「うん。いけるとおもつよ。お客さんも今なら疲れてるから」

「疲れてるから笑うんかい」

「じゃ、そろそろ時間だから行こっか」

「ええ?! もう練習終わりっ?! うそ!」

「はいはいこの蝶ネクタイしめて」

「ええええ?!?!」

よりきり、はりきりに引っぱられて下手へ移動する。

(司会者)「それでは登場していただきます! 期待の新人漫オコンビ、 “どすこいシスターズ” です!」

二人、手を小刻みに叩きながら入場。

「どーもーはりきりです!」

「よりきりです!」

「二人あわせて、」

「どすこいシスターズ!」

「じゅっあんです!」(よりきりを押しつけてはりきりが前に出てやる)

「ちよ、ちよっと!」

「いいじゃないやりたくなっちゃったんだから」

「べつにいいけど……」

「ところで、隣の家に塀が出来たんだってねえ！」

「な、なによ唐突に?!」

(小声で)「よりきりちゃんアドリブアドリブ。あわせて」

「え、え?」

「ところで隣の家に塀が出来たんだってねえ！」

「ど、どんな感じなんだい?」

「ブロッカー!!」(叫ぶ)

「それただ英語で云っただけやないか！」

(あ、でもウケてる。こんな感じでいいんだ)

(小声で)「そうそう」

「よし、ほいじゃいっちょ頑張ってみるか。ね、カンペ見せて」

「はい」

「…………… (枚数を確認して) ちょ、ちよっと、続きがないんだけど……………」

「え? あ、置いて来ちゃったかな?」

「そ、そんなあ！」

(客に気づき、なに食わぬ口調を装ってしゃべりはじめる)

「と、ところであんた最近犬飼はじめたらしいねえ！」

「え？ 飼ってないよ？」

「ウソ云うなあ！！ ってゆーかあわせてよ！ 相方苦しめるだけのアドリブやって誰が得すんのよ！！ (怒)」

「ああうそうそ。うん飼い始めたよ。すっごくかわいいの！」

「でもいろいろ面倒でしょ？ 云うこと聞かんかったりなんだから」

「ううん、だいじょうぶよ。だってわたし、犬の云うことわかるもん」

「え？ 君犬の云うこと理解できるんかいな？」

「うん」

「うそ云いなや、あんなワンワン吠えてるだけのヤツの云うことなんか分かるかいな？」

「わかるってば。コツが分かればあなたにもワンちゃんの云ってることが分かるようになるわよ」

「そいつはすごいな。じゃひとつ教えてくれんか」

「いいよ。犬はね、吠えるのにしてもいろんな意味で吠えてるわけ。」

泣き声でいろんな気持ちを表現しているわけなのよ」

「ほほうー！」

「そこで、今からよりきりちゃんがワンちゃんの鳴き真似をやってみて、それをあたしがなんで鳴いているのか当てるっていうのはどう？」

「え、え？ どうして逆にすんの？」

「アドリブよ」

「ちよ、ちよ、」

「はい、よりきりワンちゃんは、どうして吠えているんでしょうか？」

「しかたない。……ワンワン」

「うわあ、ベタですねえ！ ……いい意味で」

「それはもういいから！（なかばやけになって）ほら、なんで鳴いているんでしょうか！」

「うーんと、“負け犬の遠吠え”」

「あんた失礼なこと云うなあ！ 『散歩につれてって』て云うて鳴いてんのー！」

「わかりにくいなああんた」

「（小声で）待ってよあたしは『ツッコミ』でしょ？ あんたがボケやってよお」

「（小声で）OK、いいよ。 よーし今度はあたしがやってみるから当ててみてね。なんで鳴いているんでしょうか！ ……ばびよーん！！（大声で叫ぶ）」

「どんな犬やねん！」

「ごめんごめん間違えた。も一回いくよ。『キュウーン……』」

「あ、分かった、具合が悪いから鳴いてる」

「ブー」

「じゃ、お腹がすいてるんだ！」

「ブブー！」

「え、なんで鳴いてんのよお？」

「ウソ泣き」

「んなわけあるかい！」

「はりきり」

「よりきり」

「（二人で）ごっつあんです！」

「どうも、ありがとうございましたあ！」

二人、下手に退場。

「うわーん、恥ずかしかったよお！」

「よしよし、君は良くやった」

「汗かいたあ……！……でも、けっこう楽しかったかも」

「でしょ？」

「………またなんかあったらやってみたいね」

「じゃ、今度はトリオで」

「どーして。コンビニでいいじゃん（笑）」

「それもそうだね。平成のやすきよだもんね。よし、それじゃ頑張ったごほうびにシュークリームをあげよう」

「うわ、ホントにあったんだシュークリーム」

「200個あるからいっぱい食べてね」

（笑いながら）「どうしてそんなにあんのよー！」

一人、しゃべりながら下手へ退場

(後書き)

いかがでしたでしょうか？

この作品は元は短いお芝居用の台本として書いたものでした。それを小説風に整えて投稿したものです。基本的にお笑い好きで、古典的な漫才も大好きなので、こういった作品が作れて満足です。

今後はいろいろな作風の作品に挑戦していきますので、応援のほど、よろしくお願い致します！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3119a/>

どすこいシスターズ

2011年1月7日15時03分発行